とある魔術の幻想作り

織田信長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔術の幻想作り

【Ｎコード】

Ｎ９９８０Ｒ

【作者名】

織田信長

【あらすじ】

主人公と御坂と上条たちが魔術師と戦う話です。

プロローグ、出会い

心地いい日差しが目に入る・・・・・
９月１日　８時４５分

「ふぁ～、眠い。。」

ゴト、

「なんか音がしたような。」

彼が音の下方をみてみると時計があった。

「時計かよ、びっくりしたーはぁ～」

「ん！？」

９月１日　８時４５分

「えっとこれは～、これは・・・・・・・・・・遅刻だ～～～」

「後１０分で始業式。遅刻したら電流ビリビリ・・・・・」

「だっは～、もういやだ～。」

少し涙目に成りながら彼は全力で学校に向かっていた。

彼の名は、

麦野　翔
頭はいいがおっちょこちょいなのが欠点だ。
彼が住んでいるのは『学園都市』
名前の通り他より学生がほとんどの町だ。
ここに住んでいる人は脳をいじられている。そして人が、

超能力を使えるようになっていた。
超能力が発言する人としない人がいる。
翔は発言していない。
だが、
彼の右手には不思議な能力がある。いや能力と言っていいのかわからない・・・・・・・

「やばっい～急げ～。」

「ちょっと待ちなさい。」

「げっ、この声。いや～な予感が。」

「やっぱりおまえか～ビリビリ！！！」

「わたしは、ビリビリでもでもな～い！！！」

そう言うと彼女は電撃を出してきた。
彼女の名前は御坂美琴
電撃の使い手でＬＶ５の超能力者だ。

バチバチバチ

「！？」

翔は超能力がない。まともに食らえば今のは死んでいたかもしれないしかし、

「ビリビリサンキュー。この電撃借りるわ。遅刻は免れた～よっしゃー」

「ちょっと待ちなさいよ～」

「なんなのよあの右手。」

翔の右手は異能の力を何かに変える能力だった。

だがそれは超能力には入らない。彼自身何かわかっていなかったのだ。生まれつきあるとしか・・・・

プロローグ、出会い（後書き）

電流ビリビリは遅刻者に気合を入れるために校長が考えた政策です。

これからもがんばります。

発現（前書き）

翔の右手について・・・・幻想作り<イマジンブレーラー>といい、どんなものも自分の思った通りに変化する力がある。

続きです。

発現

翔の右手について・・・・幻想作り<イマジンブレーラー>といい、どんなものも自分の思った通りに変化する力がある。

続きです。
本文
教室。翔は遅刻しなかったらしい。

「またいじくられるのか～。」

「仕方ないで～。学園都市はそういうたこやからな～。」

「そうかー？そういや青髪の能力なんだっけ？」

青髪というのは青髪ピアスの事だ。

「そうだにゃ～。きいたことなかったにゃ～。」

これは土御門元春。

そして、

「そうだよ。おしてくれよ。」

これは原作主人公上条当麻だ。

「それは、」

「秘密や。」

「「「はぁ？」」」

三人の声がそろう。

「だから、秘密やて。」

「いいから教えろや～！！！」

上条の声が響く。

「秘密やて、ゆうてるやろ～！！！」

殴り合いが始まった。

上条が青髪に殴り飛ばされる。

とんだ先にいたのは、吹寄だ。

モフ。その二文字がその場にいた皆に過ぎった。

「なんだ！？」

びっくりしたように上条は言う。

「か、上やん！？」

三人がびくびくしている。

「ん？ひっぃ！？ふ、吹寄さん？」

そう上条が当たったのは吹寄の、、、、、
巨乳だ。
「この、馬鹿やあろうが～。」
吹寄の怒りの鉄拳が下される。
「ぐっは～」
「みんな～体育館に移動してくださいです～」
担任の小萌先生が教室に入ってきた。
「うっわぁ～。先生のクラスがルール無用のケンカクラスに～！？」
「正義の為です。」

「いって～。」」
「なんで俺だけ。能力も結局出なかったし。」
「不幸だ。」

「まあまあ、上やんおちつき～な。」

「やった～～～～！！！」

「「！？」」

上条青髪が驚く。

「やったぞお前ら。」

「どうした？」

上条が聞く。

「能力者になった～！！やっほ～い！！！」

「「うっそ～」」

上条青髪がびっくりする。

「どんなの？」

「土御門がきてからだぜ。」

「ありがとうだにゃ～」

「土御門早く！」

「どうした？上やん。」

「いくぞ～みとけよ～」

「はぁーーーーーーーーーーーーーーーーー！！！！！！」

風が翔をまとう。

「見ろ！これが、俺の能力＜大風＞（ウィンディー）だ。」

後書き
ついに能力が発動。
ここからさらなることが・・・・・・

コメント待っています。

発現（後書き）

ついに能力が発動。
ここからさらなることが・・・・・・・

コメント待っています。

神の中席

９月１０日

翔の能力の発現から１０日たった。

そして、これは魔術師と戦うお話。

そう。この話には魔術師が出てきておかしくない！

イギリス

あの女狐め～！！！」

「仕方ないですよ、ステイル。」

「しかし！！！」

「そうだぜ。今は、ねぇ～ちんのいうとうりにしといたほうがいいぜよ。」

「そういえば！ねぇ～ちん、堕天使エロメイド、ふにゃふにゃ」

神裂は、堕天使エロメイドと聞くとその人の口を抑える癖がついてしまっていた。

「堕天使？」

「何でもありません。ほほほほほ」

「まあいい。しかし本当なのか『神の中席』がうごきだしたのは！！」

神の中席・・・神の右席より強いといわれている、魔術結社のことだ。

前方の「アクイレア」女。
天候術式・・・・天候を操る魔術。

左席の「デルガ」男。
絵術式（アート）・・・絵に描いたものを三次元に呼ぶ術式。

後方の「クイック」男。
巨大化術式・・・・体の一部分を）巨大化させることができる。

右方の「ラトラータ」男。
ルート術式・・・敵を終わりのない道に誘い込み、無限の攻撃を与えれる。

「うそを言っている様ではなかったから、、、、
多分本当のことだろう。奴らはインデックスを狙っている。
一応上条当麻に連絡を入れ手おく。」
ステイルは携帯を取り出し当麻に電話をした。
「どうした？」
「実は、、、」
ステイルは神の中席のこと、インデックスが狙われていることを話

した。
「あぁ。わかった。そんじゃぁ皆によろしく言っていてくれ。
「わかった。」
「大変だスティル！！！」
「今連絡が入って神の中席前方のアクイレアが学園都市に、
、、」
「上条当麻！！」
「あぁ、聞こえてる。こっちでも侵入者が入ったとＴＶでやってる。
」
「今それどころじゃないんだ。」
「宿題が補修がいっぱいあるんだよ！！！」
「ほっておけ！こちらのほうが大変かつ大事だ！」
「あ～も～」
ル「不幸だ～」「とでもいうつもりだろ」「速く行け～！！！」
少し怒り口調なスティルだった。
「へいへ～い」
上条は寮を出てアクイレアが居る第９学区に向かった。

神の中席（後書き）

早い展開です。

まだ子供なんで許してくだせえ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9980r/

とある魔術の幻想作り

2011年10月8日21時31分発行